

# サンディニスタ人民革命 45 周年記念行事 オルテガ大統領の演説

2024 年 7 月 19 日

[Discurso del Comandante Daniel en el Acto Central en Conmemoración del 45 Aniversario de la Revolución Popular Sandinista \(el19digital.com\)](#)

ここでは誰も屈服しない！若者が指揮を執って、命令する。人民が指揮を執って、命令する。ダニエルは従う。そうだ、神に感謝しよう、我々は覚悟ができています。準備ができています。任務は、私たちニカラグア人民が守る平和のために頑張ることだ。

第一に、私たちサンディニスタはこの原則にコミットしており、ニカラグア国民もまた、平和のみが幸福、雇用、学校、病院、道路、住宅、交通、起業、教育、無料教育をもたらすと確信している。なぜならそれは人民の権利、家族の権利、若者の権利だからだ。

実際、革命の最初の一步は、全国的な識字率向上運動だった。当時、ニカラグアの識字率は 60% で、アメリカの訓練を受けた殺人者たちの銃弾の下で、識字旅団が地方に移動し始めると、彼らは殺害され始めた。

しかし、識字教師たちは逃げなかった。諦めなかった。むしろ目的を果たした。識字教師たちはついに、非識字率を 12% まで下げること成功した。60% から 12% だ。それが、革命がわが人民のために、貧民のために、農民のために達成した最初の偉大な勝利だった。

それから農地改革があった。農村では農民が土地を持たず、持っていた地主に取り上げられた。地主たちは、ソモサの国家警備隊の支援で占拠した農場でぬく

ぬくと育った。かれらに異議を唱えようとする農民がいれば、その場で殺された。

だから農民に土地を分け与えることは正しいことであり、そのためには、社会から、国民から、農民から奪われた土地を取り戻す必要があった。わが国の歴史上初めて、大農場が姿を消し、小農地が増え始めた。

私たちはまた、学校を建設し、病院を建設し、大規模な水力発電プロジェクトの開発に着手した。研究をし、そのためにある国から専門家とエンジニアを招いた、偉大な国の国民、それこそが革命勝利にすかさず挨拶をくれたソビエト連邦である。

多くの地域に、農業用、建設用のトラクターや機械が到着しはじめた。私はベラルーシの名前を忘れない。ベラルーシのトラクターはここでとても評判になった。道路や高速道路の建設機械も同じだった。

そして専門家たちは、350 メガワットの水力発電所を建設するための研究を行うことになった。カリブ海に面したここには大きな河川と水源があった。専門家たちは、350 メガワットの電力生産の条件はすべて揃っている、と熱を込めて言った。

ところがそこに野蛮人が現れた。グローバル帝国主義者たちは、45 年前に勝利したばかりのこの革命に対して、再び戦争を仕掛けたのだ。戦争は 1979 年に始まり、アメリカのロナルド・レーガン大統領が政権を握ると、彼らは、敗北してアメリカやホンジュラス、コスタリカに逃れたソモサ軍を組織し、拷問のマニユアルを配布して訓練を始めた。

ソモサの暴政に対する長い戦争で、5 万人以上の犠牲者を出したニカラグアで、再び戦争が始まった。

アメリカの支配層によって武装され、資金提供を受けたこの戦争は、何が目的だったのか。学校が建設されている田舎では教師を暗殺し、保健所が設置されて山岳地帯では医師や看護師を殺害し、学校や保健所を破壊することだった。

また、ロシアから到着したチームが高速道路や山道の開通に取り組んでいたところでは、機械や設備、そしてそのオペレーターが標的となった。彼らは運転手を殺害し、機械をダイナマイトで破壊した。事態は悪化の一途をたどり、侵略は拡大し続けた。

彼らが作業していた地域では、この水力発電プロジェクトを開始するための調査がすでに進んでおり、そこでも彼らは軍を動かし始めた。もうひとつは、大きな志をもってニカラグアに協力しようとしていた 技術者や技能者、労働者の命を危険にさらすことであった。

つまり、ロシアに率いられたソビエト連邦は、大国であるにもかかわらず、ニカラグアの富を奪うためにここに来たのではなく、むしろニカラグア人民が発展し成長できるように手を貸すためにここに来たのである。

これが、植民地主義者と新植民地主義者である大国、例えばアメリカやヨーロッパとの大きな違いである。彼らは植民地主義者であることを止めず、いまだに新植民地主義者であり、犯罪者であることを止めず、いまだに犯罪者であり、いまだに殺人者である。

ヒトラー(ナチス)はウクライナに赤軍と戦争を繰り広げていた部隊を導入することに成功した。彼らは、ドイツからウクライナを通過してソ連に向かって前進し、第二次世界大戦で巨大な戦いを繰り広げたロシア人民とソ連人民を打ち負かし、占領しようと考えていた。しかし敗北したナチスはウクライナでの復活を望んだ。これがいま起きていることだ。彼らはクーデターでファシスト、ナチス国家と政府を押し付けることに成功し、それ以降、国民、特にロシア系の住民を殺害した。

そして、80年代にニカラグアに協力したあの国が、時間の経過とともに突然、気づいたのだ。ウクライナに再びファシズムが導入され、ヨーロッパ(ヨーロッパ人民ではなく、そのほとんどがヨーロッパ政府)がファシズムを強化している、そしてナポレオンが成し遂げられなかったこと、ヒトラーが成し遂げられなか

ったことを、今度は自分たちが大統領に据えたナチスを使って成し遂げようとしていることに。

そしてもうひとつ、私たちが歴史的な関係を築いてきた国、中華人民共和国がある。

中華人民共和国が進歩と恩恵、発展をもたらしてきた世界の人民は、植民地化され、独立したものの、植民地大国の利益の下に服従させられ、貧困、悲惨、飢餓、非識字、幼児道徳の状態に置かれたアフリカやアジアの人々だ。中華人民共和国は、いかなる条件も設けることなく、これらの発展途上国に利益をもたらす政策を展開している。

NATO に属する大国は、ロシアと中国を脅威と呼び、BRICS やインドも脅威と呼んでいる。つまり、主権が尊重され、自国民のためにより良い条件を達成する合意をしている国家や国々の集まりはすべて脅威とみなすのだ。なぜなら、帝国主義者は武力で占領し、支配し、殺害し、われわれを指弾することに慣れているからだ。

ここで私たちはさまざまな地域から登壇した兄弟姉妹たちと話をしてきた。これらの諸国は植民地主義と帝国主義の弊害でどんなに苦しんできたことか。占領と戦争の間、アルジェリアやベトナムのような国では何十万、何百万もの人々が亡くなった。

私たちはまた、帝国主義者たちが、国際機関や国連での合意のもとで、国家となる権利を持つ人々に対して、どのように激怒しているのかも見ている：パレスチナ国家である。そして、その対極にあるイスラエル政府を目の当たりにしている。イスラエル国民のことを言っているのではない。アメリカ国民も悪くいうことはできない。つまり本当の犯罪者は軍事力と経済力をもって統治している者たちだ。彼らこそ犯罪者なのだ。

ソモサを武装させたのも、ソモサが長年にわたって政権維持のために虐殺をおこなわせた国家警備隊を組織したのも、彼らだ。彼らが責任者なのだ。彼らは何

者か。アメリカの支配者たちだ。アメリカの大統領は何の代表なのか。どちらの党であれ、彼らは軍事産業に奉仕する役人にすぎない。戦争が多ければ多いほど、軍需産業のビジネスも増える。アメリカの大企業に奉仕する。つまり、アメリカ国民に奉仕しているのではなく、アメリカで最も裕福な人々を豊かにしているのだ。

友人のライラさんの言葉をきいた。彼女はジェノサイドにさらされている人々の声をもってきてくれた。子どもたちが毎日殺され、若者たちが毎日殺されている。それなのにヨーロッパの政府もアメリカ政府も、NATOの会合も、毎日、イスラエルにもっともっと武器を与え、もっともっと武器を送ることを決定し、パレスチナの人々が爆撃され続けるようにしている。イスラエル国家の支配者たちは、パレスチナ国家の消滅を望んでいる。彼らはなんの恥ずかし気もなくそう言っている

しかし、法が支配しなければならない。イスラエル国家とパレスチナ国家という2つの国家を作るために、当時、世界のすべての国々が署名した国連での合意である。今、イスラエルの権力者たちは何を言っているか。パレスチナ国家は存在すべきではなく、イスラエルにとって脅威であるため消滅すべきだ、とっている。

その思想に沿うなら、私たちはアメリカの消滅を求めるべきだ。第一に消滅させるべきこの国家は人類最大の犯罪者であり、ここニカラグアで起きたように、民族を殺害して国々を占領して回るだけではない。

ニカラグアは、ウィリアム・ウォーカーの時代にヤンキーの侵攻を受け、ウォーカーは敗北した。その後、ニカラグアはヤンキーに侵略された。ヤンキーがセラヤを打倒した後、セレドンがヤンキーに立ち向かうと、彼らはセレドンを暗殺した。

そしてサンディーノがやってきて彼らに戦いを挑んだ。ヤンキーたちはサンディーノを倒せないとなると退却した。しかし、彼らはすでにここに海兵隊を組織しており、それを国家警備隊と呼び、最高司令部はアメリカ陸軍の幹部

たちだった。そして次に何をしたのか。その部隊を、サンディーノを暗殺する部隊に変えたのだ。

つまり、サンディーノがヤンキースを打ち負かしたので、ヤンキーは悪名高い陰謀を実行に移したのである。大統領はサンディーノを大統領官邸に招き、夕食会を催したが、サンディーノが官邸を出たとき、例の国家警備隊が待ち構えていた。彼らは副官とともにサンディーノを捕らえ、暗殺した。ニカラグアのヤンキー支配を容易にするためだった。

この真実は何度でも繰り返さなければならない。決して忘れてはならないからだ。もし忘れてしまえば、歴史は繰り返される。アメリカ大統領自身が、ワシントンでソモサを歓待し、榮譽をもって迎え、常に国家警備隊を訓練し、武装させ、武器を送っていたことを忘れてはならない。ルーズベルト大統領は、人殺しのソモサをなぜ迎えるのかと問われ、こう答えたことを忘れてはならない。彼はろくでなしだが、我々のろくでなしだ。彼はクソ野郎だが、彼は我々のクソ野郎だ。

だから、そういう職業に就いている女性には敬意を払うべきだが、それはマチスタの傲慢な答えなのだ。彼は我々のクソ野郎だ。つまり、ルーズベルトは、自分自身が売春婦であったと言っているのだ。

しかし、そう、つまり、自国民と人類にとって脅威となる国々を終わらせるという問題であるならば、国際機構は、それらの大国が消滅し、NATO が消滅することを真剣に考えなければならない。

この我々の革命 45 周年に際して、私たちは、人民のすべての英雄と殉教者、最初の征服者が到着して以来命を捧げてきた英雄と殉教者、そして 2018 年 4 月にナチスのやり方を用いたファシスト・ヤンキー帝国の最後のクーデター未遂で命を捧げた英雄と殉教者を、我々の魂、我々の心に刻む。

彼らは激怒して攻撃し、殺害し、燃やし、拷問し、拷問され殺害された兄弟姉妹の画像をソーシャルネットワークで公開した。革命の強さはニカラグア国民の

忠誠心、献身にあることを理解していなかったのだ。そして彼らが敗北すると、地歩を回復しようと中傷や嘘を広め始めた。

我々は歴史を通じて、いかなる社会にも基本的な要素があることを実証してきた。特に、外国勢力の介入によってニカラグアのような深刻な亀裂が生じた場合、我々は常に和解の原則を提唱してきた。そして 80 年代には、原住民との和解に向けた第一歩を踏み出した。

そこで生まれたのが自治法であり、南北カリブ海地域の共同体の兄弟姉妹に、まず自分たちの土地を所有する権利を与えた。そして各共同体にその共同体に属する土地を与えた。カリブ海にそって 3 万 5 千平方キロについて共同体に授権がおこなわれた。これは戦争の最中に達成され、一時停止されたが、和解が模索され、自治法のおかげでようやく対立に終止符を打つことができた。

しかし、ソモサ独裁政権との戦いでは、和解はより困難なものだった。ソモサはすべての経済団体に浸透し、サンディニスタ民族解放戦線に対して、戦争、殺人、拷問を駆使して、人々を怯えさせるキャンペーンをずっと続けていたからだ。しかし、人々はいよいよ恐怖心を失い始め、民衆の反乱が始まり、最終的な攻勢とソモサ圧政の打倒に至った。

彼らはなお策動し、ベネズエラについての会議では OAS を通じて介入を求め、勝利を阻止しようとしたが、そのための条件はなく、革命勢力の前進は抑えきれず、止められなかった。

今日は、45 周年をめぐる最も重要な日であり、人民があらゆる喜びの表現で顕した日であるが、2018 年 4 月に大学キャンパス、病院、保健所を破壊したときに彼らが燃やしたように、ここでは誰も家を燃やしていない。私たちは、人々が地区や近隣地域、市町村、部局の活動、夜の活動において、秩序正しく、計画的に祝賀の意を表したことに敬意を表する。

喜びの日の前夜の活動、そして 19 日の到着を待つ昨夜の活動において。つまり、そこでは暴力行為はなく、私たちが目にしたのは大きな喜びだった。なぜこれほ

ど多くの喜びがあるのか。そして、なぜこれほど多くの人々が深夜に動き回ることができるのか。平和があり、安全があるからだ。平和がないところでは、人々は簡単には外に出られない。つまり、私たちは平和を取り戻すことに成功したのであり、これは平和を望み、平和を愛し、平和を守るニカラグア国民の勝利なのだ。

そして当然のことながら、ニカラグアのために平和を望むのであれば、世界のためにも平和を望んでいる。だからこそ私たちは、さまざまなイニシアティブを支持してきた。

国際司法裁判所は、80年代のヤンキーの侵略に対し、ニカラグアに有利な判決を下した。ニカラグアにたいして犯していた犯罪を停止するようアメリカに命じ、ニカラグアに18,000百万ドルの賠償を支払うよう命じた。

ヤンキーたちはもちろん、裁判所には目もくれず、どんな裁判所にも敬意を払わず、武力を行使し、武力を使って自分たちの決定を押し付けるだけだ。しかし、その道は地獄に通じている。彼らはそれを理解しなければならないし、理解すべきだ。

銃がお菓子のように売られ、その銃を持って学校で子どもたちを殺したり、お祭りや記念式典、コンサートに来ている若者たちに銃を向けたりする。アメリカ国民は、法律を尊重し、国民を尊重し、子どもたちを尊重し、学校を尊重し、移民を尊重する政府へと変わるしかない時がくるだろう。

ヤンキーとヨーロッパ人は移民の最大の敵になった。しかしヨーロッパからこれらの国々にやってきた人々は、誰に許可を求めたのだろうか。彼らは移民ではなく、先祖の土地を奪うためにこれらの国を侵略しに来たのだ。

現在のアメリカやカナダの北米領土を侵略するために、誰に許可を求めたのか。誰が許可を求められたのか。彼らは単にそこに行くことを決め、先住民を殺害することから始め、彼らの土地を占領し、富を増やした。特にアメリカ南部や奴隷制度があるところならどこでも奴隷労働力を用いて搾取をした。



つまり、彼らが移民に対して行っているこの戦争は、単に人類の種としての権利、地球のどこへでも移住できる権利に反対しているのだ。そしてその権利は権力者たちが自ら横領したものなのだ。

今日、私たちは神に感謝し、キリストに感謝する。キリストは、喜びと愛と平和に満ちたこの特別な祝典を開催できる条件を与えてくれた。この催しは、代表団、各国政府代表団、各国大統領からの連帯の言葉を聞くという、その存在の価値を疑う余地なく認めるものである。

また、レイラのような糾弾の言葉も聞いたが、彼らは皆、このニカラグアの小さな国に敬意を示してくれた。ダリオも認めているように、私たちが小さな国であることを疑う者はいない。でもダリオは言った。「祖国が小さければ夢は大きい」。夢をもって国を可能性に満ちたものにし、力強いものにし、今私たちがニカラグアを発展させているように、祖国を発展させていくという。

だからすべての代表団の出席に感謝する。そして、変革のために、革命のために、平和のために、これまで働き、現在も働き、そしてこれからも働き続ける兄弟姉妹の出席に感謝する。このような姉妹や兄弟たちは世界中にあり、アメリカにもヨーロッパにもいるのだ。

平和のための闘いとは何であるかを知り、平和の敵の脅威にさらされる危険を冒しながら、闘いを決意する人々である。世界には、地球には、あきらめる民族、若者、女性、労働者、農民はいない。世界の民衆はあきらめず、地球が平和な世界になるまで、道を切り開き続ける。

革命勝利 45 周年万歳！

祝福と永遠の自由ニカラグア万歳！

キリスト教、社会主義、連帯のニカラグア万歳！

キューバ革命万歳！

ボリバル革命万歳

革命的人民の団結万歳！

そして、平和のために、平和と愛のために、どんな犠牲を払ってでも闘い続ける

という決意が、私たちの良心と心の中に永遠に生き続けますように！  
常に前進し、一步も後退しない！  
自由な国か、死か！

【翻訳チェック 田中靖宏】